

## 創世記45－47章 「エジプトでの救い」

### 1A ヤコブ家の呼び寄せ 45

1B 先にヨセフを遣わした神 1－15

2B 最良の地に住む約束 16－28

### 2A エジプトへの旅立ち 46

1B イサクの神へのいけにえ 1－7

2B 七十人の家族 8－27

3B 父との再会 28－34

### 3A 救われるエジプト 47

1B ファラオとの会見 1－12

2B 中央集権化 13－26

3B 先祖の墓の埋葬 27－31

## 本文

創世記 45 章を開いてください。私たちは、前回、ベニヤミンの穀物の袋に、ヨセフが銀の器を入れて、彼だけがエジプトで奴隷になるということを兄たちに告げたところを読みました。こうすることによって、兄たちが自分にした仕業に対して、同じ母から生まれた弟に対しては、どのように対応するのかを試したのです。彼らは悔い改めているのかどうかを見たかったのです。そうしたら、ユダが前に出てベニヤミンのために執り成しました。父がベニヤミンにつながっているので、ベニヤミンに何かが起これば、父はただ悲しみと苦しみの中で死ぬしかないと言いました。それゆえ、ユダは、ベニヤミンの代わりに自分が奴隷となって、父の保証をすると申し上げたのです。

### 1A ヤコブ家の呼び寄せ 45

1B 先にヨセフを遣わした神 1－15

ユダの執り成しの言葉にある、父への敬い、また弟への思いは明らかにされました。それで、これまでエジプトの大奉行様を演じていたヨセフは、これ以上、隠していることができなくなりました。

<sup>1</sup> ヨセフは、そばに立っているすべての人の前で、自分を制することができなくなって、「皆を私のところから出しなさい」と叫んだ。ヨセフが兄弟たちに自分のことを明かしたとき、彼のそばに立っている者はだれもいなかった。<sup>2</sup> ヨセフは声をあげて泣いた。エジプト人はその声を聞き、ファラオの家の者もそれを聞いた。

ヨセフの家に仕えていたエジプト人は追い出されましたが、ヨセフが号泣する声を聞きました。その声は、ファラオの宮廷にまで聞こえました。

<sup>3</sup> ヨセフは兄弟たちに言った。「私はヨセフです。父上はお元気ですか。」兄弟たちはヨセフを前にして、驚きのあまり、答えることができなかった。

ここでヨセフは、エジプトの言葉からヘブル語に変えています。これまで通訳を介して話していたところから、通訳者もなしに、そのままヘブル語で話しています。驚きますね、エジプトのお偉い方の格好をして、エジプトの言葉で語っていた者が、急に、自分たちの言葉を話すのです。しかも、死んだ者と思われていたヨセフだと言うのですから。

<sup>4</sup> ヨセフは兄弟たちに言った。「どうか私に近寄ってください。」彼らが近寄ると、ヨセフは言った。「私は、あなたがたがエジプトに売った弟のヨセフです。

エジプト人の格好はしていますが、当然、顔すがたは変わりません。かなりの年月が経っていますから、少しは変わっているでしょう。でも近づけば、兄たちにも分かります。

<sup>5</sup> 私をここに売ったことで、今、心を痛めたり自分を責めたりしないでください。神はあなたがたより先に私を遣わし、いのちを救うようにしてくださいました。

これまで、ヨセフは全部、兄たちの会話を聞いていました。そこで彼らが、自分を売ったことで心を痛め、自分を責めている姿を全部、見ていました。だから、ここでそんなことをしなくてよいのだよ、と慰めているのです。

そして、ヨセフの性格もあって、その信仰と知恵の言葉が炸裂します。彼は、若い時から、自分の知ったこと、見たことをそのまま語ります。結論から話します。兄たちの行っていた悪いことは、そのまま父に告げていました。そして、兄たちがおじぎをするという夢をそのまま話しました。それは、彼にとっては性格の弱さとも言えるでしょう。兄たちを敬っていないということもあるでしょう。けれども、同時に彼は、神に対してまっすぐに生きてきました。だから、ファラオに対して、自分ではなく、神が夢を解き明かすのだとすぐに答え、また、七年間の豊作と七年間の飢饉に対して、そのままどうすればよいのかの、対策を語ったのです。彼は、信仰と、それから知恵の人でした。限られた資源をどのように割り振ればよいのか、管理の賜物と、治める賜物が与えられていました。

そして、兄弟たちに対しては、なぜ今、自分自身がエジプトにいるのか、そして兄たちが売ったというよりも、神がそこで御手を動かしておられて、エジプトに自分を遣わしたことを告げています。ヨセフがずっと思っていたことは、いかに父の家を飢饉から、飢餓から救うか？ということだったのです。それが眼中にあるので、兄たちが自分を売らなければ、今、こうやって家が生き残ることはできなかったと知ったのです。そして、すぐに彼らをエジプトに呼び寄せる必要があると判断しました。

<sup>6</sup>というのは、この二年の間、国中に飢饉が起きていますが、まだあと五年は、耕すことも刈り入れることもないからです。

これは、父ヤコブも兄弟たちも、知らない情報です。いつ飢饉が終わるか？来年かもしれないと、甘い期待を持っていました。しかし、エジプトではすでにヨセフが解き明かしたファラオの夢によって、残り五年は続くことが知らされていたのです。

<sup>7</sup> 神が私をあなたがたより先にお遣わしになったのは、あなたがたのために残りの者をこの地に残し、また、大いなる救いによって、あなたがたを生き延びさせるためだったのです。

ここは、ヨセフが、神の壮大なご計画が示されていたことを示しています。それは、出エジプトです。「残りの者」とは、二重の意味があります。それは、ヨセフ自身であり、彼によってヤコブの家全体が、エジプトで飢饉から救われるという意味です。

けれども、「残りの者」とか「大いなる救い」という言葉には、預言的な意味合いが含まれると思います。つまり、「残りの者」は、ヤコブの家の者たちということでしょう。そして、「あなたがた」というのは、「イスラエルの民全体」とみなしているのです。ヤコブの家の者たちがエジプトにおいて、「残りの民」となり、その残りの民が、エジプトから出て行くことで、神の大いなる救いを受けるのだという意味合いです。

<sup>8</sup> ですから、私をここに遣わしたのは、あなたがたではなく、神なのです。神は私を、ファラオには父とし、その全家には主人とし、またエジプト全土の統治者とされました。

今、ヨセフは神の御手に注目してほしいと願っています。兄たちが何をしたかは、極端に言えば、神の目にはどうでもよく、先に自分を遣わし、ヤコブの家を救うために、ファラオに対して父、ファラオの全家には主人、そして、エジプト全土の統治者としたのです。

<sup>9</sup> どうか、急いで父上のところに上って行き、言ってください。『息子のヨセフがこう言いました。「神は私をエジプト全土の主とされました。ためらうことなく私のところに下って来てください。<sup>10</sup> ゴシェンの地に住んで、私の近くにいてください。父上も、子と孫、羊と牛、また父上に属するすべてのものも。<sup>11</sup> 飢饉はあと五年続きますから、父上も家族も、また父上に属するすべてのものも、困ることのないように、私が父上をそこで養いましょう」と。』

ヤコブの家をすべて養いますと約束しています。これだけのことができるのは、彼がエジプト全土の主となっているからです。

キリストご自身の姿をよく示しています。主は人としてはユダヤ人で、ユダヤ人たちのために来られました。ところが彼らが拒んだ。しかし、その間に主は、世界のすべての人に主としてあがめられるようになっています。そして再び来られる時に、事実、すべての王たちの王、主たちの主として来られ、そして、ユダヤ人の兄弟たちのために来られるのです。彼らがそこで、この方が自分たちのメシアであると知って、受け入れます。パウロが、ロマ 11 章で論じました。「11:25-27 兄弟たち。あなたがたが自分を知恵のある者と考えないようにするために、この奥義を知らずにいてほしくはありません。イスラエル人の一部が頑なになったのは異邦人の満ちる時が来るまでであり、26 こうして、イスラエルはみな救われるのです。「救い出す者がシオンから現れ、ヤコブから不敬虔を除き去る。27 これこそ、彼らと結ぶわたしの契約、すなわち、わたしが彼らの罪を取り除く時である」と書いてあるとおりです。」

<sup>12</sup> さあ、あなたがたも、弟のベニヤミンも、自分の目でしっかり見てください。あなたがたに話しているのは、この私の口です。<sup>13</sup> あなたがたは、エジプトでの私のすべての栄誉と、あなたがたが見た一切のことを父上に告げ、急いで父上をここに連れて来てください。」

目の前にあるものを、これまで考えてこなかったことであればなおさら、受け入れるのは時間がかかります。そこで、しっかりと目で確認し、またエジプトで見たことを目に焼き付け、それで父のところに伝えに行ってくださいと言っています。

<sup>14</sup> 彼は弟ベニヤミンの首を抱いて泣いた。ベニヤミンも彼の首を抱いて泣いた。<sup>15</sup> 彼はまた、兄弟みなに口づけし、彼らを抱いて泣いた。それから兄弟たちは彼と語り合った。

彼は自分の弟には、当然、最も結びつきを感じています。それでベニヤミンの首を抱いて、泣いています。それから、兄たちは安心したことでしょう、ヨセフが彼らも受け入れていることを確認できています。彼のほうから、口づけして抱いて泣いています。そして、語り合っていますね。

## 2B 最良の地に住む約束 16－28

<sup>16</sup> ヨセフの兄弟たちが来たという知らせが、ファラオの家に伝えられると、ファラオもその家臣たちも喜んだ。

ヨセフに対する好意は、一貫しています。ポティファルも好意を寄せ、監獄の長もそうでした。主がそうされたことを、証ししています。主は、不信者の人々も用いられ、このように好意を与えて、事を進めてくださることが、しばしばあります。

<sup>17</sup> ファラオはヨセフに言った。「おまえの兄弟たちに言うがよい。『こうしなさい。家畜に荷を積んで、すぐカナン地へ行き、<sup>18</sup> あなたがたの父と家族を連れて、私のもとへ来なさい。私はあなたがた

に、エジプトの地の最良のものを与えよう。あなたがたは、地の最も良い物を食べるがよい。』

ファラオもヨセフと心が一つになっていました。飢饉があるから、エジプトに来てくださいというものです。しかも、最も良い土地を与え、そこから取れる良い物を食べなさいというのです！

<sup>19</sup> おまえはこう命じなさい。『子どもたちと妻たちのために、エジプトの地から車を持って行き、あなたがたの父を乗せて来なさい。<sup>20</sup> 家財に未練を残してはならない。エジプト全土の最良の物は、あなたがたのものだから』と。」

かなり長い距離ですから、女子供にとってはきついです。老齢の父ヤコブには、なおさらのことです。しかし、エジプトには車がありました。当時、エジプトの車はかなりの先端技術でした。

<sup>21</sup> そこで、イスラエルの息子たちはそのようにした。ヨセフは、ファラオの命により、彼らに車を与え、また道中のための食糧も与えた。

国家予算の中から、イスラエルの息子たちは車、また道中の食糧が与えられています！

<sup>22</sup> 彼ら一人ひとりに晴れ着を与えたが、ベニヤミンには銀三百枚と晴れ着五着を与えた。<sup>23</sup> 父に贈ったものは、エジプトの最良のものを積んだろば十頭と、穀物とパンと父の道中の食糧を積んだ雌ろば十頭であった。

ヨセフの個人的な思いが表れています。ベニヤミンには五倍の晴れ着です。また銀 300 枚です。そして、父にはエジプトの最良のものです。また、穀物とパン、道中の食糧です。これを見せることによって、カナンのに未練を感じないでほしいと願っています。

<sup>24</sup> こうしてヨセフは兄弟たちを送り出し、彼らが出発するとき、彼らに言った。「道中、言い争いをしないでください。」

この言い争いは、彼らがまだまだ、自分たちの罪から回復していないからです。ヨセフは赦していますが、彼らは罪から来る心の傷が言えていないので、ああだこうだと言い争うことになりそうです。また、父にヨセフが生きていることを告げるのは、あの、血のついた長服はいったい何だったのか？ということになり、父を偽っていたことも分かります。でも、そんなことはどうでもいい、とにかく父をエジプトに連れてきてほしいという思いから、言い争わないでくださいとお願いしています。

<sup>25</sup> 彼らはエジプトから上って、カナンのに、彼らの父ヤコブのもとへ戻って来た。<sup>26</sup> 彼らは父に告げた。「ヨセフはまだ生きています。しかも、エジプト全土を支配しているのは彼です。」父は茫然とし

ていた。彼らのことばが信じられなかったからである。<sup>27</sup> 彼らは、ヨセフが話したことを残らず彼に話して聞かせた。ヨセフが自分に乗せるために送ってくれた車を見ると、父ヤコブは元気づいた。

全く信じられていませんでしたが、このエジプト特製の車は何よりもの証拠です。これを、息子たちが入手できるなど到底できませんから。

<sup>28</sup> イスラエルは言った。「十分だ。息子のヨセフがまだ生きているとは。私は死ぬ前に彼に会いに行こう。」

分かりますか？ずっとヤコブと呼ばれていたところで、ここで「イスラエル」に変えられています。そうです、ヤコブがベニヤミンをエジプトに連れて行くのを了承した時も、イスラエルの名に変えられていました。彼が、かかとをつかむ者という名にあるように、自分のものにしがみついている時は、自分が生来もっている性格で、何でも自分でやって行こうとするもので、主のなされていることに、明け渡す時に、初めて勝利しているので、それでイスラエルと呼ばれます。彼はいさぎよく、エジプトに下ることに同意しています。

## **2A エジプトへの旅立ち 46**

### **1B イサクの神へのいけにえ 1ー7**

<sup>1</sup> イスラエルは、彼に属するものすべてと一緒に旅立った。そしてベエル・シェバに来たとき、父イサクの神にいけにえを献げた。

イスラエルは、ヘブロンに住んでいました。そこを南に下りベエル・シェバまで来ると、そこからネゲブで荒野になります。そこにはかつてアブラハムが住み、それからイサクも住んでいました。そしてそこからは約束の地から離れることになります。覚えていますか、少年イシュマエルが母ハガルとともにそこから旅をしました。サラがアブラハムに出ていけなければいけない、と言ったからです。イサクと共に約束を受け継ぐことはできないことを話しました。それでアブラハムはパンと水の皮袋を持たせて行かせましたが、井戸が見つからなくて死んでしまうと思ったのです。

この約束の地の境目まで来たときに、イスラエルは、本当にこれでいいのか、しっかりとみこころを求めたかったのです。彼は、「父イサクの神にいけにえを献げた」とあるとおり、父イサクのことを思い出したのでしょう。父イサクはいつも、エジプトに下ってはならないと神に語られていました。祖父アブラハムも、決してイサクを外に出すことはしませんでした。アブラハムがエジプトに下り大きな失敗を犯した教訓があるからです。ですから、ヨセフがそこにいて、死ぬ前に顔を見たいと願いましたが、それが、はたしてみこころにかなっているかを知りたかったのです。私たちも、状況としてはすべてが順風に見えても、はたしてそれがみこころにかなうのか立ち止まることは必要です。



<sup>2</sup> 神は、夜の幻の中でイスラエルに「ヤコブよ、ヤコブよ」と語りかけられた。彼は答えた。「はい、ここにおります。」

二度、名を呼びかけているのは、親しみを込めており、個人的に語りかけておられるのです。そして、主のしもべの姿ですね、「はい、ここにおります」と答えています。「ここで、主人であるあなたが、言われることを行うべく待っています」という意志表示です。

<sup>3</sup> すると神は仰せられた。「わたしは神、あなたの父の神である。エジプトに下ることを恐れるな。わたしはそこで、あなたを大いなる国民とする。<sup>4</sup> このわたしが、あなたとともにエジプトに下り、また、このわたしが必ずあなたを再び連れ上る。そしてヨセフが、その手であなたの目を閉じてくれるだろう。」

主が、はっきりと語ってくださいました。エジプトに下ることは、神のご自身のみこころだったので。午前礼拝でもお話ししたように、イスラエルの子らは、エジプトに行き、そこで国民となり、四代目で、約束の地に帰って来ると、アブラハムに語っておられました。さらに、ヨセフが自分の目を閉じてくれる、つまり、ヨセフが見守る中で息を引き取る約束も与えておられます。エジプトで自分は息を引き取るのです。

<sup>5</sup> ヤコブはベエル・シェバを出発した。イスラエルの息子たちは、ヤコブを乗せるためにファラオが送った車に、父ヤコブと自分の子どもたちや妻たちを乗せた。<sup>6</sup> そして、家畜とカナンで得た財産を携えて、ヤコブとそのすべての子孫は、一緒にエジプトにやって来た。<sup>7</sup> 彼は、自分の息子と孫、娘と孫娘、すなわちすべての子孫を、一緒にエジプトに連れて来た。

族長であるヤコブの、祈りの後の決断によって、一家全員がエジプトに下る行動に出ました。ヨセフの要請ではなく、ファラオの要請でもなく、ヤコブが主に命じられて下っていくのです。

## 2B 七十人の家族 8-27

そして 8 節から 27 節まで、イスラエルの家族の名前がすべて書かれています。いや、娘たち、孫娘たちの名は、全員の分は書かれていません。けれども、人数の中に、はっきり入っています。

<sup>8</sup> エジプトに来たイスラエルの子ら、ヤコブとその子らの名は次のとおりである。ヤコブの長子ルベン。<sup>9</sup> ルベンの子はハノク、パル、ヘツロン、カルミ。<sup>10</sup> シメオンの子はエムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ツォハル、カナン。女による子シャウル。<sup>11</sup> レビの子はゲルシオン、ケハテ、メラリ。<sup>12</sup> ユダの子はエル、オナン、シェラ、ペレツ、ゼラフ。エルとオナンはカナンで死んだ。ペレツの子はヘツロンとハムルであった。<sup>13</sup> イッサカルの子はトラ、プワ、ヨブ、シムロン。<sup>14</sup> ゼブルンの子はセレデ、エロン、ヤフレエル。<sup>15</sup> これらは、レアがパダン・アラムでヤコブに産んだ子で、それに娘ディナが

いて、彼の息子や娘たちは全部で三十三人。

名前は、それぞれの息子、また孫が、ヤコブの妻、つまり母ごとに連ねられています。初めに、レアの子です。長子ルベンから始まっています。次男シメオンは、イスラエル人の妻の他にカナン人の妻もめとっていたようです。三男がレビですが、「ゲルシオン、ケハテ、メラリ」は、後に祭司の家系の氏族として数えられ、それぞれ異なる任務が与えられます。そして四男がユダですね。38 章に出てきたように、主の怒りを買ひ、エルとオナンは殺されました。ユダと嫁タマルによって、ペレツが生まれました。

それから、レアは子が生まれなくなります。しかししばらく経って、イッサカルとゼブルンが生まれました。そして、娘たちの中で、ディナだけは名前が出て来ています。彼女がシェケムで凌辱を受けたからです。

<sup>16</sup> ガドの子はツイフヨン、ハギ、シュニ、エツボン、エリ、アロディ、アルエリ。<sup>17</sup> アシェルの子はイムナ、イシュワ、イシュウィ、ベリアと、彼らの妹セラフ。ベリアの子はヘベル、マルキエル。<sup>18</sup> これらは、ラバンが娘レアに与えたジルパの子である。彼女はヤコブに、これら十六人を産んだ。

レアから直接生まれた子らの次は、レアの女奴隷ジルパから生まれた子たちです。ガドとアシェルをジルパは産みました。

<sup>19</sup> ヤコブの妻ラケルの子はヨセフとベニヤミン。<sup>20</sup> ヨセフにはエジプトの地で子が生まれた。それは、オンの祭司ポティ・フェラの娘アセナテが彼に産んだ、マナセとエフライムである。<sup>21</sup> ベニヤミンの子はベラ、ベケル、アシュベル、ゲラ、ナアマン、エヒ、ロシュ、ムピム、フピム、アルデ。<sup>22</sup> これらはヤコブに生まれたラケルの子で、全部で十四人。

レアとレアの女奴隷ジルパの次は、ラケルです。二人の子が生まれました。ヨセフはエジプトで、マナセとエフライムです。そしてベニヤミンですが、かなり多く生んでいますね、十人の息子です。

<sup>23</sup> ダンの子はフシム。<sup>24</sup> ナフタリの子はヤフツェエル、グニ、エツェル、シレム。<sup>25</sup> これらは、ラバンが娘ラケルに与えたビルハの子である。彼女がヤコブに産んだのは全部で七人であった。

最後、ラケルの女奴隷ビルハの産んだ子たちです。ダンとナフタリです。

<sup>26</sup> ヤコブに属する者、彼の腰から生まれ出た子でエジプトにやって来た者は、ヤコブの息子たちの妻を除いて、全部で六十六人。<sup>27</sup> エジプトで生まれたヨセフの子は二人である。エジプトに来たヤコブの家族は、全部で七十人であった。



ヤコブの血がつながっている人たちだけで数えています。ヤコブの息子の妻たちもいっしょですが、数えていません。ヤコブ自身の妻たちですが、おそらくこの時点ですべて死んだのでしょう。ラケルは、ベツレヘムに行く道で死んだのは、すでに書き記されています。レアについては、49章31節で、ヘブロンで葬ったことについてヤコブ自身が話しています。

ところで、使徒の働きで、ユダヤ人のサンヘドリンでステパノが裁判にかけられた時に、イスラエルの歴史を彼は述べていきました。「7:14 そこで、ヨセフは人を遣わして、自分の父ヤコブと七十五人の親族全員を呼び寄せました。」と言っています。五人さらに多いです。これは、マナセとエフライムの息子の数が足されているからです(民数 26:28-37、1歴代 7:14-27)。

「七十」という数ですが、「七」という数は一貫して、神のご性質をあらわす数、完全数であることが分かります。後にモーセのところにつく長老が七十人いることになります。そして、ダニエルが終わりの日については、七十週が定められているという啓示を受けました。

### 3B 父との再会 28－34

<sup>28</sup> さて、ヤコブはユダを先にヨセフのところに遣わして、ゴシェンへの道を教えてもらった。そうして彼らは、ゴシェンの地にやって来た。

ユダが家族を率いる役目を担っています。ヨセフに対して保証人となると言ったのもユダでした。ヨセフがヤコブの晩年の祈りで二倍の祝福を受けますが、ユダは、「獅子のようになる」という祝福を受けます。つまり、王たちが彼から現れ、メシアも現れるのです。ヨセフ族は、エフライム族とマナセ族に分かれ、そして北イスラエルの代表はエフライムです。

そして来たのは、「ゴシェンの地」です。ナイル下流部分は三角形の肥沃地帯デルタがあります。その北東の部分がゴシェンになります。

<sup>29</sup> ヨセフは車を整え、父イスラエルを迎えにゴシェンへ上った。そして父に会うなり、父の首に抱きつき、首にすがって泣き続けた。<sup>30</sup> イスラエルはヨセフに言った。「もう今、私は死んでもよい。おまえがまだ生きていて、そのおまえの顔を見たのだから。」

ヨセフが、ついに父イスラエルに会えました。17歳の時に奴隷に売られた時以来です。ちょうど、北朝鮮に拉致された人が日本に帰国して、ご両親に会ったみたいな感覚に近いでしょう。全く異国の地において、でも両親はどこに行ったのか分からなくて、それで何十年ぶりかで会えました。そして、イスラエルは先に言ったように、ヨセフの顔を見れたのでそれで満足しました。

<sup>31</sup> ヨセフは兄弟たちや父の家の者たちに言った。「私はファラオのところに知らせに上って行き、申

しましょう。『カナンの地にいた、私の兄弟たちと父の家の者たちが、私のところにやって来ました。<sup>32</sup> この人たちは羊飼いです。家畜を飼っていたのです。この人たちは、自分たちの羊と牛と、所有するものすべてを連れて来ました。』<sup>33</sup> もしファラオがあなたがたを呼び寄せて、『おまえたちの職業は何か』と聞いたら、<sup>34</sup> こう答えてください。『しもべどもは若いときから今まで、家畜を飼う者でございます。私たちも、また私たちの先祖も』と。そうすれば、あなたがたはゴシェンの地に住めるでしょう。羊を飼う者はみな、エジプト人に忌み嫌われているからです。」

正式に、外国人がエジプトに移住するための手続きです。まずヨセフがファラオに伝えます。そして本人たちが、ファラオの前で申告します。そこで強調するのが、「自分たちが家畜を飼っている」ということです。羊飼いがエジプト人には忌み嫌われている、という背景があって、敢えてその職業の部分を強調します。

エジプトでは、家畜の多くが神々として拝まれていました。それで牛や羊を屠る職業は忌み嫌われていました。日本で言うならば、「えたひにん」というところでしょうか？そして、エジプトの社会は、農業が中心なので、定住しないで遊牧する牧畜が、そこら辺でうろついている者たち、みたいな、悪いイメージがありました。そして、事実、歴史的にヘブル人と同じセム系の、ヒクソスがエジプトを攻めてきて、一時期、ヒクソス人の王朝がエジプトを支配しました。ヒクソスは、それで「羊飼いの王たち」とも呼ばれました。

それで、ヨセフがいくら敬われていても、食事の時にエジプト人とは一緒に食べなかったことを思い出してください。ヘブル人なので、分けられていたのです。ヨセフは、これをうまく利用しようと思いました。つまり、エジプト人と隔離された形で、イスラエルの子らが自分たちだけで生活できるからです。ヨセフもまた、ここが自分たちの故郷ではないことを知っていました。

### **3A 救われるエジプト 47**

#### **1B ファラオとの会見 1-12**

<sup>1</sup> ヨセフはファラオのところにきて、報告した。「私の父と兄弟たち、また、その羊の群れ、牛の群れ、そして、彼らの所有するものすべてが、カナンの地から参りました。今、ゴシェンの地におります。」

<sup>2</sup> 彼は兄弟の中から五人を連れて来て、ファラオに引き合わせた。<sup>3</sup> ファラオはヨセフの兄弟たちに尋ねた。「おまえたちの職業は何か。」彼らはファラオに答えた。「しもべどもは羊を飼う者で、私どもも、私どもの先祖もそうでございます。」<sup>4</sup> また、彼らはファラオに言った。「私たちはこの地に寄留しようとして参りました。カナンの地は飢饉が激しくて、しもべどもの羊のための牧草がございません。どうか、しもべどもをゴシェンの地に住まわせてください。」

ヨセフと申し合わせたとおりに、ヨセフの兄弟たちは、自分たちが羊を飼う者だと言いました。先祖もそうだというのは、家業がそうであるということです。そして、次に彼らは「寄留しようとして

参りました」と言っています。ここが大事です。あくまでも、定住ではなく寄留です。一時的に、避難してきたのです。ヤコブの家が飢餓から救われるように、ここに留まることが目的です。

ここからずっと創世記の最後まで、「約束の地を待つイスラエル」の姿が見えてきます。そして事実、出エジプト記で彼らは出てきます。エジプトにいても、心はイスラエルの地です。私たちキリスト者は、信仰によって新たに生まれた時以来、国籍が天に移りました。故郷はここにはあらず、天にあるのです。私たちの地上の生活が、「一時的なもの」とみなすのです。ペテロはこう言いました。「Ⅰ ペテ 2:11 愛する者たち、私は勧めます。あなたがたは旅人、寄留者なのですから、たましいに戦いを挑む肉の欲を避けなさい。」旅人、寄留者なのです。

<sup>5</sup>ファラオはヨセフに言った。「おまえの父と兄弟たちが、おまえのところに来た。<sup>6</sup>エジプトの地はおまえの前にある。最も良い地に、おまえの父と兄弟たちを住ませなさい。彼らをゴシェンの地に住ませるがよい。彼らの中に有能な者たちがいるのが分かったなら、その者たちを私の家畜の係長としなさい。」

ファラオが前にヨセフに伝えていたように、最も良い地に住ませなさいと言っています。ゴシェンの地は、肥沃な土地だから、その通りにしなさいと言っています。さらに加えて、ファラオは、自分の家畜の係長としなさいとまで言いつけています。ただの羊飼いか、王の家畜を飼育する者へと引き上げられました！

<sup>7</sup> それから、ヨセフは父ヤコブを連れて来て、ファラオの前に立たせた。ヤコブはファラオを祝福した。

ここは、さりげなく書いてありますが、とても大切な箇所です。国の王、しかも時の超大国の王の前に、小さな族長が連れて来られました。そして、その小さな族長が、国の王に祝福しているのです。祝福は上位にいる者が下位にいる者に対して行うものです。これは、世俗の王がどんなに権力があっても、霊の権威は優っていることを示しているに他なりません。

私たちキリスト者は、ヤコブと同じように霊的に祭司です。どんなに力を持っている人であっても、すべての人の霊的必要は同じです。キリストが罪人を救うために来られた、ということ。そして罪の赦しを受け、永遠の命を得るのだということ。この真理を伝え、またこの真理のために祈り、祝福するのは、たとえ国の指導者であっても行うものなのです。

<sup>8</sup>ファラオはヤコブに尋ねた。「あなたの生きてきた年月は、どれほどになりますか。」<sup>9</sup>ヤコブはファラオに答えた。「私がたどってきた年月は百三十年です。私の生きてきた年月はわずかで、いろいろなわざわいがあり、私の先祖がたどった日々、生きた年月には及びません。」<sup>10</sup> ヤコブはファラ

オを祝福し、ファラオの前から立ち去った。

アブラハムは 175 歳まで生き、イサクは 180 歳まで生きました。それで「私の生きてきた年月はわずか」と言っています。そしてそれが、「いろいろなわざわいが」あったと言っていますが、確かにヤコブの人生にはストレスが多かったです。エサウから逃げ、ラバンの下で過酷な労働を強いられました。自分の力で、自分の手の力で生きてきた所にあるのは、ストレスであり疲れがあります。

<sup>11</sup> ヨセフは、ファラオが命じたとおりに、父と兄弟たちの住まいを定め、彼らにエジプトの地で最も良い地、ラメセスの地に所有地を与えた。<sup>12</sup> またヨセフは、父と兄弟たちとその一族全員を、扶養すべき者の数に応じて、食物を与えて養った。

ゴシェンの地の中にラメセスがありました。そこに所有地が与えられています。さらに、ヨセフは彼らを人数にしたがって食物を与え、養いました。相当な費用になったと思いますが、ヨセフは責任をもって養ったのです。

## 2B 中央集権化 13－26

こうしてイスラエル的一家が住み始めました。その中で飢饉が進みます。しかし、その飢饉においても、エジプトの国民は飢餓から守られ、かつファラオの所有は増し加わりました。ヨセフが、知恵をもって治めたことと、また、イスラエルの家がエジプトの中にあり、ファラオがイスラエルの家によくしていったから、ということには、大きな因果関係があります。

<sup>13</sup> 飢饉が非常に激しかったので、全地で食物がなくなり、エジプトの地もカナンの地も飢饉によって衰え果てた。<sup>14</sup> ヨセフは、エジプトの地とカナンの地にあった銀をすべて集めた。それは人々が穀物に対して払ったものである。ヨセフはその銀をファラオの家に納めた。

これまで見てきたとおり、穀物を豊作の時に倉に納めさせて国庫としました。そして凶作の時に、それを銀貨で購入させていました。

<sup>15</sup> エジプトの地とカナンの地に銀が尽きたとき、エジプト人はみなヨセフのところに来て言った。「私たちに食物を下さい。銀が尽きたからといって、どうして私たちがあなた様の前で死んでよいでしょうか。」<sup>16</sup> ヨセフは言った。「おまえたちの家畜を差し出しなさい。銀が尽きたのなら、家畜と引き替えに与えよう。」<sup>17</sup> 人々がヨセフのところに家畜を引いて来たので、ヨセフは、馬、羊の群れ、牛の群れ、ろばと引き替えに、彼らに食物を与えた。こうして彼はその年、すべての家畜と引き替えに、彼らに食物を分け与えた。

彼らに銀貨がなければ、家畜と交換に食糧を分け与えました。これで、エジプト中の家畜は、ファ

ラオのものとなりました。

<sup>18</sup> やがてその年も終わり、次の年にも人々はヨセフのところに来て言った。「私たちはあなた様に何も隠しません。銀も尽き、家畜の群れもあなた様のものになったので、自分のからだと土地のほかには、あなた様の前に何も残っておりません。<sup>19</sup> どうして私たちが、土地と一緒にあなた様の前で死んでよいのでしょうか。食物と引き替えに、私たちと私たちの土地を買い取ってください。私たちは土地と一緒にファラオの奴隷となります。どうか種を下さい。そうすれば私たちは生き延び、死なずにすみます。土地も荒れないでしょう。」<sup>20</sup> それでヨセフは、エジプトのすべての土地をファラオのために買い取った。エジプト人に飢饉が厳しかったので、人々がみな、自分の畑地を売ったからである。こうしてその土地は、ファラオのものとなった。

家畜も尽きたので、彼らは農奴となりました。つまり、土地を売り、また彼ら自身もファラオの奴隷となったのです。そして、ファラオのために種を蒔いて、育てますと言っています。こうして、土地も、そして彼ら自身もファラオのものとなりました。中央集権化です。これがいつも良い制度だと思いませんが、危機の時に、良い統治者であれば必要な措置でしょう。

<sup>21</sup> また民については、エジプトの領土の端から端に至るどこでも、彼らを町々に移動させた。

ファラオの権威の下で彼らは動くことになるので、管理しやすいように町々に移動させました。そして、改めて土地を割り当てて、種を与え、農作をさせることになります。

<sup>22</sup> しかし、祭司たちの土地だけは買い取らなかった。祭司たちにはファラオからの給与があり、ファラオが与える給与によって生活していたからである。そのため、自分たちの土地を売らなかった。

当時、エジプトの神官はものすごい既得権を得ていました。ヨセフにファラオは、祭司の娘を与えたのを思い出してください、それは祭司が高い地位にあったからです。そしてここでは、王でさえ干渉することのできない私有地を持つことができていました。後に出エジプト記で、彼らがファラオの前で魔術を行って見せます。王をある意味で動かしていたのが、これら祭司です。

<sup>23</sup> ヨセフは民に言った。「見よ。私は今、おまえたちとおまえたちの土地を買い取って、ファラオのものとした。さあ、ここに、おまえたちのための種がある。これをその土地に蒔きなさい。<sup>24</sup> 収穫の時になったら、その五分の一はファラオに納め、五分の四は自分のものとしなさい。畑の種にするため、自分の食糧にするため、家の者のため、また扶養すべき者たちの食糧のために、そうしなさい。」

農奴になったと言っても、実際の生活は手厚い保護を受けていました。いわゆる税率 20 パーセ

ントの納税を行っていたのと同じです。日本の納税状況より、はるかに良いです。

<sup>25</sup> すると彼らは言った。「あなた様は私たちを生かしてくださいました。私たちは、あなた様のご好意を受けて、ファラオの奴隷となりましょう。」<sup>26</sup> ヨセフは、エジプトの土地について、五分の一はファラオのものとしなければならないという、一つの掟を定めた。それは今日にまで及んでいる。ただし、祭司の土地だけはファラオのものとならなかった。

民も、ヨセフの方針によって飢饉を免れたことをよく知りました。そして、五分の一をファラオのものとするにも、納得していました。それが、ずっと続くことになります。そして、祭司の土地だけは、モーセが創世記を書いていた時であっても、ファラオのものにならなかったと強調しています。

### 3B 先祖の墓の埋葬 27-31

<sup>27</sup> さて、イスラエルはエジプトの国でゴシェンの地に住んだ。彼らはそこに所有地を得て、多くの子を生み、大いに数を増やした。

主が約束されたとおりになりました。主は、アブラハム、イサクに約束されたように、ヤコブの家も祝福されました。多くの子を生み、数が大いに増えました。

これが、ファラオの国が飢饉から救われ、かつファラオの権威の下に土地も財産も集まったことは、はっきりとつながっています。それは、アブラハムに「あなたを祝福する者は、祝福される」ということです。ファラオが、ヤコブの家族に良くしたので、国全体が救われたのです。そして、その救われている国で、イスラエルの家族も子が与えられ祝福されました。

このことと、出エジプト記の始まりに、「ヨセフを知らないファラオが現れた」として、ヘブル人をひどく扱うようになります。そうすると呪いが来ました。この対比であります。

<sup>28</sup> ヤコブはエジプトの地で十七年生きた。ヤコブが生きた年月は百四十七年であった。

ヨセフの顔を見たから、私は死んでも良いといったヤコブですが、さらに 17 年間生きています。ヨセフが生まれてからエジプトに連れ去られたのが 17 年間、そして、ヨセフの顔を見てから死ぬまでが 17 年間と、同じ期間ですね。

<sup>29</sup> イスラエルに死ぬ日が近づいたとき、彼はその子ヨセフを呼び寄せて言った。「もしおまえの心にかなうなら、おまえの手を私のもの下に入れ、私に愛と真実を尽くしてくれ。私をエジプトの地には葬らないでほしい。



自分でも死ぬ日が近いと分かってきました。そして、ヨセフを呼び寄せます。かつて、アブラハムが自分のしもべに、自分のもの下に手を入れ、誓わせましたが、これは厳粛な誓いです。

<sup>30</sup> 私が先祖とともに眠りについたら、エジプトから運び出して、先祖の墓に葬ってくれ。」ヨセフは言った。「必ずあなたの言われたとおりにいたします。」<sup>31</sup> イスラエルは言った。「私に誓ってくれ。」ヨセフは彼に誓った。イスラエルは寝床の枕もとで、ひれ伏した。

そうです、ヤコブは自分の墓を必ず先祖の墓、すなわちアブラハムが購入した、ヘブロンにある墓ですね、そこに葬ってくれと誓わせます。つまり、彼が死んだ後、遺体をそこにまで運んで、葬ってくれということです。ヤコブは、死んだら終わりと思っていませんでした。自分のからだは約束の地にある、そしてアブラハム、イサクの次に、自分に対して約束が受け継がれたのだということを、墓によって証ししようとしていたのです。

ここで読まなければいけないのは、ヘブル 11 章です。「11:13-16 これらの人たちはみな、信仰の人として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるか遠くにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり、寄留者であることを告白していました。14 そのように言っている人たちは、自分の故郷を求めていることを明らかにしています。15 もし彼らが思っていたのが、出て来た故郷だったなら、帰る機会があったでしょう。16 しかし実際には、彼らが憧れていたのは、もっと良い故郷、すなわち天の故郷でした。ですから神は、彼らの神と呼ばれることを恥とさえいませんでした。神が彼らのために都を用意されたのです。」ここに故郷あらず、です。

そして、「イスラエルは寝床の枕もとで、ひれ伏した」とあります。これもまた、ヤコブは信仰によって行ったことが、ヘブル 11 章にあります。「11:21 信仰によって、ヤコブは死ぬときに、ヨセフの息子たちをそれぞれ祝福し、また自分の杖の上に寄りかかって礼拝しました。」ヘブル語のギリシア語訳、七十人訳には、「枕もとで、ひれ伏した」が、杖の上に寄りかかって礼拝したとなっているようです。こうして、ヤコブは自分が約束につながっていることを、力をふりしぼって証しました。

私たちも同じです。この地上にあって寄留者であること、そして約束の地、天に故郷があることをしっかりと証しを、この地上で立てて行かないといけません。地上のことは、地上のことで楽しんで、それから最後に天のことを考えれば、ではないのです。今から、天に属している者として、地上を行き、ここは寄留にしか過ぎないことをからだを張って証します。